

① 広告主名 株式会社 朝日新聞出版	② 著作物等の種類 言語の著作物
③ 著作物等の概要 書籍「女たちの太平洋戦争」①～③に掲載された文章（和文）。（詳細別紙1）	
④ 連絡先 法人名 株式会社 朝日新聞出版 担当者名 書籍編集部 木造 住所 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 TEL 03-5541-8794 FAX 03-3542-8151 E-mail kitsukuri-h@asahi.com	
⑤詳細 書籍「女たちの太平洋戦争」に掲載された文章（和文）。（詳細別紙1） 株式会社朝日新聞社から出版された書籍を復刊（文庫）するにあたり、著作者、著作権者と連絡がとれず、情報提供を求めています。 下記（別表）の方々のご連絡先（ご住所、お電話、メールなど）をご存知の方がいらっしゃいましたら、ご連絡をいただけると幸いです。 よろしく願いいたします。	

書籍「女たちの太平洋戦争」に掲載された文章

No.	著作物の題号	著作者名	著作物の種類	当該著作物の詳細 (巻号・発行年・発行元)
1	父への便りに「輸送船沈んだ」一憲兵隊から呼び出しが……	宮本明子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(80ページ～)
2	無断でトランク検査—「恐れ多くも……」と声高に	加藤和子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(82ページ～)
3	自由学園出身でスパイ容疑	笠原 徳	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(84ページ～)
4	「非国民」が、琴の音消す	中野まつ子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(90ページ～)
5	万歳と叫びたくない—答えた友は泣いた	星野寿美	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(93ページ～)
6	キリスト教徒と名乗れなかった	岡崎幸江	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(95ページ～)
7	「モンペはけ」「大阪弁直せ」—疎開先でもう一つの戦い	清水蓉子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(97ページ～)
8	渡された薬物—飲まずに済んで今の私	伊東節子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(99ページ～)
9	戦火の東京—牛車で引越し	関口昭子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(101ページ～)
10	兄さん戦死せえへんの—繰り返し母に訴えた私	岡本類子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(102ページ～)
11	つらい胸の内、話せなかった	城野登久子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(104ページ～)
12	「軍人の妻」にだまされる	六車 徳	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(105ページ～)
13	敗戦で一転、民主主義唱え……	鈴木美枝子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(108ページ～)
14	軍人に罵声—情けない日本人実感	鏡 福子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(109ページ～)
15	教育のこわさつくづく	梅田矢す代	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」①(111ページ～)
16	火の手から逃げる母と私を警官は「非国民」と殴った	高木留子	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」②(117ページ～)
17	遊びで描いたB29—怒声と嘲笑ビンタされ	筒井和美	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」②(121ページ～)
18	敵が来たら玉砕せよ—先生は言った	長尾 愛	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」②(123ページ～)
19	十六歳でなった「軍国せんせい」	中沢麗子	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」②(125ページ～)

20	中国で会った慰安婦— 金に縛られ心身ボロボ ロに	藤井 忠	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (144ページ～)
21	強制労働・慰安所の開 設—南の楽園汚した軍 隊	揚田明夫	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (146ページ～)
22	フィリピンで見た地獄 —お産助けてくれた女 性が殺された	吉良シズノ	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (218ページ～)
23	教育勅語—信じて酔っ た「神国日本」	知野淑子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (222ページ～)
24	軍国乙女の模範校に妃 殿—燕尾服の先生が ブタの番	渋谷陽子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (226ページ～)
25	障害で働けなかった私 —女学校進学さえ許さ れず	小柴資子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (228ページ～)
26	「チャーチルを縛れ」 —授業やめて縄ない時 間	鬼塚良子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (230ページ～)
27	英国民謡まで敵扱いに	兼次京子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (231ページ～)
28	敵国音盤でコンサート —許可を得て何回も公 開	嶋本 猛	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (232ページ～)
29	児童に弁当盗まれた— 食糧難でしかりもでき ず	武富智子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (234ページ～)
30	勉強せぬまま—感動の ない卒業式	林 哲子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (235ページ～)
31	「誤った歴史教えてす まない」—戦後、授業 で先生謝罪	西村ふじえ	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (237ページ～)
32	演習でしごかれた産後 の母	平野チヒロ	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (238ページ～)
33	夫の戦死のせた公報— 涙は見せなかったが	後藤秋子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (240ページ～)
34	わが家の米騒動—必死 に隠したあの時代	毛利日出子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (241ページ～)
35	天と地、逆さまに…… 終戦の日	村端春美	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (243ページ～)
36	凍える手で編んだ俵	瀬沼幸恵	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (245ページ～)
37	国際劇場で風船爆弾づ くり—「子供を殺傷」 に愕然	山崎美和	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (247ページ～)
38	一椀のうどん求めて行 列—花恥ずかしき娘盛 りに	黒柳良子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (259ページ～)
39	宝塚の青春—レビュー 消え……ついに中止命 令	西野田鶴子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (260ページ～)
40	人形のようなだった長男	西岡照子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太 平洋戦争」① (116ページ～)
41	陸軍造兵廠、死体が山 になった	角道与志子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太 平洋戦争」① (118ページ～)

42	落ちる爆弾さけて泣く	芳野静恵	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (119ページ～)
43	母を失い家も全焼一泣き続けた	妹尾 (旧姓・三宅) 千鶴子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (121ページ～)
44	進学の前、爆死の兄	澤 以三子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (125ページ～)
45	ああ、生玉さんが燃えていく……	山田伸子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (127ページ～)
46	焼けた馬小屋、肉あさる人	大津保子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (129ページ～)
47	川に飛び込み失神—無数の遺体と浮いていた	神尾比佐子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (130ページ～)
48	言問橋の上に重なる「土人形」	角野 (旧姓・岩) 美代子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (139ページ～)
49	焼夷弾の雨—反物十反持ち、走った	八島ミネ子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (142ページ～)
50	上野駅の疎開ラッシュ—見送るはずが、同行	戸尾早木子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (144ページ～)
51	あかり消し走った汽車	吉田みを子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (146ページ～)
52	ロマンチック気分も一瞬—忘れられぬ月夜の空襲警報	浜田浦子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (150ページ～)
53	恋も知らず牛を引いた	奥田タミ	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (154ページ～)
54	疎開先でひたすら勤労奉仕—もっと勉強したかった	金田恵子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (158ページ～)
55	わんわん泣いた疎開児童	三宅美喜子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (162ページ～)
56	男衆がいなくなる—十九歳で見合い、急ぎ結婚	中園 光	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (176ページ～)
57	細く長い布の洗濯—それは禪	杉山有里子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (193ページ～)
58	軍国教育を受けた兄—美校への夢捨てて戦死	早川とみ子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (198ページ～)
59	軍事教練に明け暮れ、そして……	和田武子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (207ページ～)
60	T先生の解説に涙—衝撃を受けた軍国の少女	石井洋子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (209ページ～)
61	一度は決めた集団自決—学徒勤労報国隊の8・15	佐々木和子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (215ページ～)
62	風船爆弾つくった日々—花びら形に紙を切って息抜き	堤 静香	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (237ページ～)
63	風船爆弾作りさえ甘い思い出の彼方	嶺 貴美恵	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (240ページ～)

64	「神風」の手ぬぐい— 額にしめ工場で働いた	岡田照子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (241ページ～)
65	洗濯奉仕で下着洗う— シラミの行列に悲鳴	出口実代子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (244ページ～)
66	空襲でお米屋さんも焼 けた—拾って防空頭巾 に詰めた	小牧 絹與	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (250ページ～)
67	二度まで売られた私	長沢春子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (255ページ～)
68	両親・兄を振り切り夫 と残った	田淑瑛	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (265ページ～)
69	母が出したきれいな浴 衣—灯火管制の町を蛍 狩りへ	久世幸子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (32ページ～)
70	「疎開の子の寂しさわ かる人になって」	村越八重子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (34ページ～)
71	灯火管制の夜に弟が生 まれた……	太田美江	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (36ページ～)
72	勇んでなったバス運転 手	溝端光枝	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (41ページ～)
73	防空壕のスカーレッ ト・オハラ	佐藤紀子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (46ページ～)
74	夫のもとへ一人旅— 「死ねない」心の中で 誓う	長船金子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (48ページ～)
75	空襲かいくぐり結婚式 —その数日後、彼は戦 地へ	神戸敏枝	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (50ページ～)
76	今も思い出す、外国人 捕虜のやさしい青い目	岡田登美子	言語の著 作物	1991年11月25日・書籍「女たちの 太平洋戦争」② (54ページ～)
77	壕にガス弾……のたう ち回った	宮良ルリ	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (14ページ～)
78	熱帯樹林を四十日も 転々	石川幸子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (17ページ～)
79	米軍陣地へ斬り込み志 願—一寸前に逃げ帰る	照屋菊子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (19ページ～)
80	「私を殺せ」と友…… 「死のう」と米兵の元 へ	上原当美子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (23ページ～)
81	重傷兵—薬なく軍医も 打つ手なく	島袋淑子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (25ページ～)
82	迫り来る米兵、自決選 んだ級友	宮城喜久子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (29ページ～)
83	ひめゆり隊のほかにも 犠牲	池原正雄	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (35ページ～)
84	私の沖縄戦—空覆う敵 機におびえ	大城春子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (36ページ～)
85	本当に復帰？ 続く不 発弾処理	不明（「大学生」と 記載あり）	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太 平洋戦争」③ (47ページ～)

86	新婚旅行の地が戦場 だったとは……	村井有子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (49ページ～)
87	兄との別れ—会えぬま ま人間魚雷に	宮下節子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (84ページ～)
88	入隊前夜の夫と一手を 重ね何も語らず	高橋セキイ	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (87ページ～)
89	「すぐ帰る」……夫の 言葉胸に一冬の駅で待 ち続けた母子	名所籌子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (92ページ～)
90	兄の出征を見送り遅刻 —まじめにやれと教師	西川礼子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (95ページ～)
91	悲しげだった恩師・小 泉先生	和泉和子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (97ページ～)
92	父の涙・兵の涙・師の 涙	岡 文子	言語の著 作物	1992年4月5日・書籍「女たちの太平洋戦争」③ (101ページ～)
93	朝鮮人の女性を取り囲 み非難	高田光子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (15ページ～)
94	二つの国をさまよう心	不明（「匿名希望」と記載あり）	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (19ページ～)
95	射殺命令、寸前で中止 に	ノーマ・アルモロ	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (21ページ～)
96	兄は日本兵として死ん だ—恨みは積もるばかり	呉 壬順	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (24ページ～)
97	民族衣装の洗濯姿—い ま気付く偉大さ	大西和子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (25ページ～)
98	「オモニ」と言えば罰 金	河 福姫	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (26ページ～)
99	ニンク見るたび浮か ぶ複雑な思い	那須聡子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (28ページ～)
100	隠れて見た「敵性映 画」—中国・天津市で	佐藤道子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (32ページ～)
101	町で殴打された米捕虜	有田優貴子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (33ページ～)
102	赤十字病院に爆弾—戦 場では無力な国際条約	野際初恵	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (35ページ～)
103	青酸カリを持たされて	川口光子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (37ページ～)
104	終戦—現地の人に殴ら れた父	吉田貞子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (38ページ～)
105	引き揚げの記録—息子 あてにテープ	伊吹ヤエ	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (40ページ～)
106	「一貫目しか」—一歳 の息子を抱きしめた父	千葉孝子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (44ページ～)
107	「引き揚げの記」に涙 —憲法の重み痛感	前田潤子	言語の著 作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (45ページ～)

108	四百人の命奪ったソ連機 一口止めされた敵機 飛来	小山永子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (47ページ～)
109	娘を救ってくれた人	日高一枝	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (57ページ～)
110	女性への乱暴が横行― 帰国やっと三カ月だけ	出口政江	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (58ページ～)
111	日本軍に夫を殺され米 一俵とは	ニ・ラデン・ジュラ エハ	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (60ページ～)
112	日本兵恐れ森に逃げた ―役立った盗品のトラ ンプ	ウォン・ユット・イ ン	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (62ページ～)
113	次々と死んだ弟たち	出口康子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (63ページ～)
114	弱者を救えぬ恩給制度	福永美知子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (69ページ～)
115	小舟で脱出一水音に震 え止まらず	二ツ森美枝子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (74ページ～)
116	恐怖の中、芽ばえた友 情―ソ連の家族も戦火 を逃れ……	三海サキ子	言語の著作物	1991年8月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」① (76ページ～)
117	引き揚げ列車内―あの おなかの赤ちゃんは… …	高野スエ	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (60ページ～)
118	やっと会えた父は連行 され、銃殺に	斎藤千鶴	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (62ページ～)
119	脱出のヤミ船に米兵が 乗船……	松岡典子	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (65ページ～)
120	忘れられない位牌持つ 暗い目	津田朝江	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (67ページ～)
121	ソ連兵憎しばかりでは 一戦争加担の足元を見 て	加藤敦美	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (73ページ～)
122	手記を読んだ衝撃―言 葉ではと十四歳の娘	老田栄子	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (76ページ～)
123	身代わりになった元慰 安婦の方々	入江徳子	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (79ページ～)
124	おびえる私に手差し伸 べてくれた中国人男性	小池すみ江	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (83ページ～)
125	怖かった日本人巡查	金 女淳	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (88ページ～)
126	韓国語を習い上官に叱 られる……	黒崎和江	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (90ページ～)
127	敗戦の夜、決別の歌― 私たちを逃がし、教官 は撃たれた	那須佐紀子	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (94ページ～)
128	言葉にならない悲しさ がある	広実平八郎	言語の著作物	1991年11月25日・書籍「女たちの太平洋戦争」② (98ページ～)